



第15回

[住宅課題賞2015] 建築系大学住宅課題優秀作品展

【開場日時】

2015年10月19日(月)~11月6日(金)10:00~18:00

土・日・祝日休館(24日(土)は開館) / 最終日16:00まで

【会場】

ギャラリー エー クワッド

〒136-0075 東京都江東区新砂1-1-1 竹中工務店 東京本店1F

<TEL>03-6660-6011 <URL><http://www.a-quad.jp/>



GALLERY A*

第15回

[住宅課題賞2015] 建築系大学住宅課題優秀作品展

RESIDENTIAL STUDIO PROJECT AWARD 2015

ごあいさつ

東京建築士会は、東京都の建築士有資格者団体として、また東京都指定登録機関として建築士の業務の進歩改善と品位の維持向上を図り、さらに生活環境の向上と建築文化の進展に寄与することを目的として、様々な活動を通し、建築情報を提供しながら建築士制度の普及に努めています。

その一環として、毎年、市民の皆さまに建築士の理解を深めていただく機会として、建築の展示会を開催しています。

平成13年より企画して参りました「住宅課題賞」入選作品展（建築系大学住宅課題優秀作品展）は、本年も昨年に引き続き、ギャラリー エークワッドのご協力により、同会場において実施する運びとなりました。この企画は15回目を迎えましたが、さらに参加大学が増え、本年は37大学48学科の参加・出展をいただいています。

「住宅課題賞」は、首都圏の建築系大学より、設計授業の住宅課題の優秀作を募り展示し、さらにこの中から公開審査により特に優れた作品を「優秀賞」として選出し顕彰しています。

本賞は建築の基本である住宅の設計を通して、建築を学ぶ学生の皆さんに、その楽しさと社会的な意義への認識を深めていただくと同時に、建築士会会員をはじめ第一線で活躍されている建築士と各大学間における建築教育の情報交換と学生間の交流の場を目的として企画されたものです。

今後の建築界を担う学生のみならず、建築教育を担う大学にとっても有意義なものになると考えています。

この入選作品を公開展示することにより、建築に携わる方々への新鮮な刺激と、より多くの人々に建築への理解をより一層深めていただける機会となれば幸いです。

なお、本展に際し、企画運営にご協力いただきましたギャラリー エークワッドをはじめ、ご協力いただきました関係各位に厚く御礼申し上げます。

2015年10月
一般社団法人 東京建築士会

出展規定

【参加条件】

貴大学で行われている住宅設計課題の優秀作品を1作品推薦。

学部生、1年～3年時の作品（作成時）とする。

課題作品は、平成26年9月（前年後期）以降のものとする。

出題ペーパーと学生の作品（図面及び模型）両方を展示する。

【出展規定】

図面：A1版（縦841mm ×横594mm）縦使いに統一、1枚とする。

5ミリのスチレンボードなどに貼られたもので、ぶら下げられる重さのものとし、枠はなしとする。

模型：縮尺は1/50 に原則統一、1点とする。

大きさは、幅1,100mm ×奥行700mm の範囲内に収まるものとする。

但し、作品規模により、上記に収まるものであれば、縮尺は要相談。

【賞】

各大学から選ばれた段階で、「住宅課題賞」入選とする。

さらに展示作品の中から「住宅課題賞優秀賞」数点が選ばれる。

【審査方法】

公開審査とする。

公開審査

【日時】

2015年10月24日（土） 13:00～17:00

【会場】

竹中工務店 東京本店 2F Aホール

【審査員】

審査員長：植田 実（編集者・建築評論家）

審査員：石田 敏明（石田敏明建築設計事務所／前橋工科大学工学部建築学科教授）

木島 千嘉（木島千嘉建築設計事務所）

濱野 裕司（竹中工務店 東京本店設計部 設計 ISD 部長）

吉松 秀樹（東海大学工学部建築学科教授／アーキプロ）

司会進行：木下 庸子（設計組織 ADH／工学院大学建築学部教授）

〔住宅課題賞〕参加大学 37 大学／48 学科

01.宇都宮大学 工学部 建設学科 建築学コース

02.神奈川大学 工学部 建築学科 デザインコース

03.関東学院大学 建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース

04.共立女子大学 家政学部 建築・デザイン学科 建築コース

05.慶應義塾大学 環境情報学部 環境情報学科

06.工学院大学 建築学部 建築学科

07.工学院大学 建築学部 建築デザイン学科

08.工学院大学 建築学部 まちづくり学科

09.国士舘大学 理工学部 理工学科 建築学系

10.駒沢女子大学 人文学部 住空間デザイン学科 建築デザインコース

11.芝浦工業大学 工学部 建築学科

12.首都大学東京 都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース

13.昭和女子大学 生活科学部 環境デザイン学科

建築・インテリアデザインコース

14.女子美術大学 芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻

15.多摩美術大学 美術学部 環境デザイン学科

16.千葉大学 工学部 都市環境システム学科

17.千葉工業大学 工学部 建築都市環境学科 建築設計コース

18.筑波大学 芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域

19.東海大学 工学部 建築学科

20.東京大学 工学部 建築学科

21.東京家政学院大学 現代生活学部 生活デザイン学科

22.東京藝術大学 美術学部 建築科

23.東京電機大学 未来科学部 建築学科

24.東京都市大学 工学部 建築学科

25.東京理科大学 工学部第一部 建築学科

26.東京理科大学 工学部第二部 建築学科

27.東京理科大学 理工学部 建築学科

28.東洋大学 理工学部 建築学科

29.日本大学 芸術学部 デザイン学科

30.日本大学 生産工学部 建築工学科 建築総合コース

31.日本大学 生産工学部 建築工学科 建築デザインコース

32.日本大学 生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース

33.日本大学 理工学部 建築学科

34.日本大学 理工学部 海洋建築工学科

35.日本工業大学 工学部 建築学科

36.日本工業大学 工学部 生活環境デザイン学科

37.日本女子大学 家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻

38.文化学園大学 造形学部 建築・インテリア学科 住生活デザインコース

39.法政大学 デザイン工学部 建築学科

40.前橋工科大学 工学部 建築学科

41.前橋工科大学 工学部 総合デザイン工学科

42.武蔵野大学 環境学部 環境学科 都市環境専攻

43.武蔵野美術大学 造形学部 建築学科

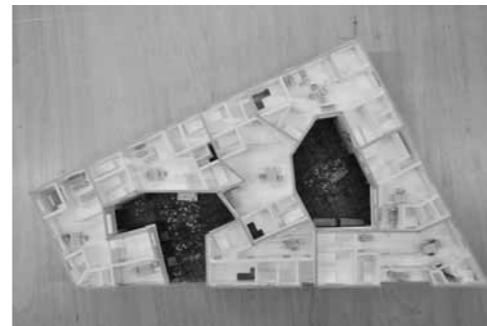
44.明海大学 不動産学部 不動産学科 デザインコース

45.明治大学 理工学部 建築学科

46.ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース

47.横浜国立大学 理工学部 建築都市・環境系学科 建築EP

48.早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 建築学科



01 集合住宅

対象敷地が面する通りには小さな川(釜川)が流れており、川沿いにセレクトショップやバー、雑貨屋、建築スタジオなどが混在している宇都宮市の中でも面白い人が集まる土地。そんな釜川周辺の人たちを住人に想定した。中庭のポイドで各住人は関係を持ち、1階の共用部分で住人どうし異職交流が生まれ共同でプロジェクトを行うなどして地域に還元できるきっかけの場になって欲しい。



塚本 琢也 (つかもと たくや) 宇都宮大学

工学部 建設学科 建築学コース／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:安森 亮雄

指導教員名:若松 均



02 エッジに建つ住宅

現在家族で過ごす時間が極端に少なくなってきている。夫は仕事で残業、妻はパート、子供は習い事、家族で揃う時間がなく、一つ屋根の下に暮らしているのにまるで一人暮らしをしているような家族になっている。生活にかかせない家具というツールを現在の家庭環境を改善する一つとして用いる。家具を連続的につなげることにより、空間的には分かれているが間接的につながりが生まれる。



千々松 海図 (ちぢまつ かいと) 神奈川大学

工学部 建築学科 デザインコース／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:山家 京子

指導教員名:三笠 友洋



03 都市に建つクリエイターの小さな家

小さな建物が密集して立ち並ぶ黄金町。違法店舗の閉鎖、改修、そして地域住民の転出等で街はカラっぽになった。そんな場所だから、住宅でもなくアトリエでもない、住宅でもありアトリエでもあるような、中立的な建物が必要だと考えました。そんな建物がカラっぽの街を埋めていく。すると街は、繁華街でもなく住宅街でもオフィス街でもない、中途半端だからこそ居やすい街になると考えました。



森 紗月 (もり さつき) 関東学院大学

建築・環境学部 建築・環境学科 すまいデザインコース／3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:粕谷 敦司、奥野 公章、村山 徹

指導教員名:粕谷 敦司、奥野 公章、村山 徹



04 コミュニティスペース『ひとをつなぐばしょ』がある住まい

5差路の一角にある自由が丘の敷地。ここに、地域のコミュニティの場となる住宅兼ブックカフェを考える。レベル差を設けることでブックカフェは「外」に開きつつも、くつろぐための住宅の「内」の空間は確保する。「外」空間と「内」空間の中間的存在である「共有空間」を設け、プライバシーを守りつつ気配の感じることができる、住宅の新たなコミュニティの可能性を提案する。



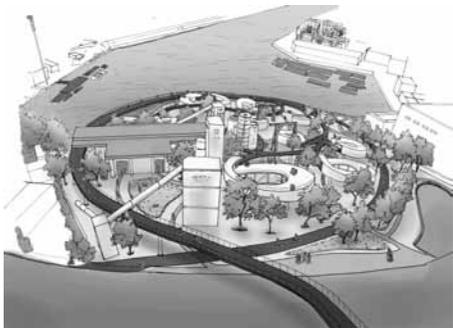
池田 友葉 (いけだ ともは) 共立女子大学

家政学部 建築・デザイン学科 建築コース／3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:工藤 良子

指導教員名:工藤 良子



05 デザインスタジオ(住まいと環境)

現代の工業地域を、観光地・居住地として再開発する手法を提案する。川崎臨海部に工業地域と住宅地が分断された地域がある。そこに点在した歴史的リソースや工場萌えスポット、羽田空港他様々な観光地を、既存にあるサイクリングロードを使用し、自転車という地域になじんだ交通機関で周遊可能にする。短期滞在の外国人を対象に、サイクリングロードに直接繋がる集合住宅S.P.I.R.A.Lを設計した。



加藤 有里 (かとう ゆり) 慶應義塾大学
環境情報学部 環境情報学科 / 3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:小林 博人
指導教員名:小林 博人



06 森の中の小さなキャンパス・ロッジ

このキャンパスロッジで軸とした最も大きな要素は「秘密基地のようなワクワク感」である。日常生活を離れた家族を対象に、数日間だけの宿泊の中で非日常な感覚を楽しんでもらえる建物を提案したかったからだ。これを表現するために私は敷地内に幾重にも重なる木の葉からアイデアをもらい空間を考え、結果全体の形が把握しにくく、内部で迷わせるような秘密基地の要素を可能にした。



杉本 晴香 (すぎもと はるか) 工学院大学
建築学部 建築学科 / 2年
課題出題時学年:1年 出題教員名:藤木 隆明
指導教員名:富永 祥子、寛 淳夫、大塚 篤、伊藤 潤一、稲葉 唯史、澤崎 宏、石川 雅博、杉浦 伝宗、保 清人、堀 正人



07 都市居住(都市機能を併設させた新しい集合住宅のかたち)

今日の集合住宅は一枚の界壁により隣人との関係は断絶され、一戸一戸が完全なプライベートの空間となっている。界壁をやわらかな2重の壁に置換し住戸空間を深化させることで表向きの領域と奥向きの領域の層をつくりだし、つながりと独立性を持った、気配をシェアする集合住宅を提案する。



島田 滉大 (しまだ こうだい) 工学院大学
建築学部 建築デザイン学科 / 4年
課題出題時学年:3年 出題教員名:木下 庸子
指導教員名:木下 庸子、西森 陸雄、藤木 隆明、星 卓志、金箱 温春、カーニー マイケル、小川 真樹、沢瀬 学、三浦 文典



08 外のある家

「外のある家」を考えるために、まず「外」と「家」とは何かを考える必要があった。そこで私は、外を自然・家を落ち着く空間と考えた。そして外を家に取り込むために、家をかたち作る要素である壁自体を自然(緑)で造った。それによって、どこにいても自然を感じ、木漏れ日で休んでいる時のような落ち着く空間が演出できる。



井出 綾香 (いで あやか) 工学院大学
建築学部 まちづくり学科 / 2年
課題出題時学年:2年 出題教員名:富永 祥子
指導教員名:藤木 隆明、櫻原 徹、篠沢 健太、伊藤 潤一、川口 通正、木野内 剛、澤崎 宏、原田 智章、安田 博道、横田 歴男



09 郊外に建つ大家族の家

世界有数の都市、東京。街はコミュニティに溢れているが希薄さが目立つ。郊外ではさらに目立ち、核家族化等の問題が起きている。本計画ではまず、家族というコミュニティを意識した。外部に閉じ内部に開き強固なコミュニティを築く。それを多数の要素により郊外全体に伝染させてゆく。超限定的アンテナ住居本建築はコミュニティの発現、そして伝染を目的とする。



中里 優 (なかざと ゆう) 国士舘大学
理工学部 理工学科 建築学系 / 3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:郡 裕美、鈴木 文晴、都留 理子、保坂 猛、渡辺 純、南 泰裕
指導教員名:南 泰裕



10 都市の坂道に住む

私は、階段があまり好きではない。だからこそ、階段が楽しいと思えるような建物を作りたいと思った。そこで、坂道の地形を生かし、階段で住人同士のコミュニケーションが活性化される集合住宅を考えた。各住戸の階段側にガラス張りの趣味を楽しむ空間を配置し、住人同士のコミュニケーションを図る場を提案した。また、階段は屋上まで繋がり、階段状の共有の庭が広がる。



北村 陽 (きたむら みなみ) 駒沢女子大学
人文学部 住空間デザイン学科 建築デザインコース / 3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:太田 清一、茂木 弥生子
指導教員名:太田 清一、茂木 弥生子



11 様々に変化する生活シーンを考えた住宅

新興住宅地において、住宅は安全性とプライバシーの確保のために壁は内部と外部を明確に分け、窓は外部の人との関係を生むことがほとんどない。まるで住宅は檻のように家の中と外を視覚的・空間的に分断し、地域のコミュニティが育まれることを阻害している。これに対し、やわらかで大きな屋根の「すそ」が外部との程よい距離感を生み、地域とつながる契機となる「すその家」を提案する。



斉藤 有生 (さいとう ゆき) 芝浦工業大学
工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年:2年
出題教員名:郷田 修身
指導教員名:刀刀 強



12 家を読みかえる／環境を読みかえる

間取りの秩序からなる既存軸組を読み替え、2.7m×2.7mグリッドとそのグリッドの1階と2階での東西方向への910mmのずれを発見。910mmのずれは1階と2階をゆるやかに連続的につなげている。垂直方向のギャップを水平方向にもフレームとして延長し、各空間の接続の仕方を読み替える。3種類のフレームにより、敷地に適した内部と内部、内部と外部をゆるやかにつなげる新たな秩序を生みだす。



三友 かな (みつとも かな) 首都大学東京
都市環境学部 都市環境学科 建築都市コース / 3年
課題出題時学年:3年
出題教員名:一之瀬 雅之、伊藤 暁、中川 純、猪熊 純
指導教員名:中川 純



13 アトリエ付きシェアハウス —上町・豪徳寺らしさをいかして—

壁の四角い穴は日常生活を風景として切り出し、ここに住むアーティスト達の創作源となるような空間を目指した。また段差のある床は移動の際、視線に変化を与え、人の居場所にもなる。アトリエを通じて開かれたこの建築は、地域の人々にも親しみのある場となる。また将来シェアハウスの役目を終えた時でも、用途を変えて在り続けることの出来る設計とし、長年愛されるような建築を考えた。



秋元 詩穂里 (あきもと しおり) 昭和女子大学
生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアコース / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 杉浦 久子
指導教員名: 高橋 肇



15 風景の中の住空間 ~夫婦がくつろげる週末住宅~

クライアントの「森の中で生活していると感じたい」という思いを設計するにあたり重きを置きました。この課題で設定された八王子の敷地は背の低い山々に挟まれています。床のレベルを部屋ごとに変える事で人の視線を操作し、どの場所においても森の木々が目に入り、自然をより身近に感じられるようにしました。



難波 美砂子 (なんば みさこ) 多摩美術大学
美術学部 環境デザイン学科 / 2年
課題出題時学年: 1年 出題教員名: 田淵 論
指導教員名: 田淵 論、米谷 ひろし、橋本 潤、古暮 和歌子、田嶋 豊、高橋 靖一郎



16 my life in matsudo

本課題の対象地である千葉県松戸市は、東京に職をもつ人々のベッドタウンとして栄え、全国の多くの都市と同様に地域性の喪失がみられる。本提案は、一人の彫刻家が住む住宅を想定している。住人が住宅の壁面そのものに松戸の風土や歴史を刻みつけていくことで、住宅はただのハコではなく、街とともに変化し続けながら松戸の記憶を語る“住居機能を持った石碑”へと昇華していく。



品田 礼希 (しなだ ひろき) 千葉大学
工学部 都市環境システム学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 森永 良丙、峯田 建、船木 幸子
指導教員名: 森永 良丙、峯田 建、船木 幸子



17 小住宅の設計

住宅一つ一つがまちを構成し、温かみをうみだす。しかし、近年の住宅の量産に伴い住み手の個性や人の繋がりには内側に閉じられてしまった。どこにでもあるようなこの公園と隣接した敷地で、視ること視られることに着目し家族の生活が垣間見えることにより、まちの温かみをうみ出す住まいを提案する。



駿河 洋子 (するが ようこ) 千葉工業大学
工学部 建築都市環境学科 建築設計コース / 3年
課題出題時学年: 2年 出題教員名: 遠藤 政樹
指導教員名: 石原 健也、今村 創平、遠藤 政樹、後藤 伸一、多田 脩二、千葉 貴司



18 ミニマル・コンプレックス

現在の都市の住宅地における分厚い壁で仕切られ、(閉じたへや)で完結してしまう生活をまちへと開くことを試みる。へやがにわを囲い、また、にわに囲われる。生活の場はにわだったりへやだったり。光、風、植物といった自然環境や、近所の人々の会話であるといったさまざまな物事と関わりながら巡る家である。そこでは、(へや)(にわ)(まち)が関係を持つことで、生活領域がへやからまちへグラデーションを帯びるようにぼんやりと広がる。へやとまちの間に出来る新たな領域と日常生活の共存に都会の住宅地における豊かな生活の可能性を感じた。



厚見 慶 (あつみ けい) 筑波大学
芸術専門学群 デザイン専攻 建築デザイン領域 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 嶋沢 隆
指導教員名: 嶋沢 隆



19 「わたし・と・あなた」 Private and Public in SmallHouse

密着した家々、狭い路地が連続して繋がる下町路地。共有部と私有部の境界線が曖昧な月島で、私とあなたとアナタの私有部空間の在り方について考えた住宅です。スラブや外壁のスキマによって内部と外部空間を緩やかに繋ぐことで、私とあなたの居場所をつくり、近隣のあなたとの関係も繋げます。個々の個性が外部や内部へしみ出し、より豊かな路地空間を生み出していきます。



小野 里紗 (おの りさ) 東海大学
工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 2年 出題教員名: 古見 演良
指導教員名: 渡邊 研二、山崎 俊裕、古見 演良、更田 邦彦、木島 千嘉、納谷 新、河内 一泰、田島 芳竹、白子 秀隆、井上 玄



14 集合住宅計画・景観デザイン

1階をすべて個室群、2階を共用部にし、敷地全体にギャラリーを点在させることで、代官山というコミュニティに生活をさらす。それぞれの住戸の個室に直接アクセスでき、住人以外も自由に入り回遊できるネットワークのような道のあるパブリックのある空間をつくった。また、屋上緑化や庭園、天体観測スペースなど屋上が自由に活用でき、住人の楽しい家づくりに貢献できる。



隅本 唯 (すみもと ゆい) 女子美術大学
芸術学部 デザイン・工芸学科 環境デザイン専攻 / 4年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 飯村 和道、下田 倫子
指導教員名: 飯村 和道、下田 倫子



20 大江戸線の延伸に伴う近郊外型集住計画の提案

人口減少社会へとシフトしていく日本の、東京の近郊外における集住計画を考える。従来の人を都市に最密充填させるための集合住宅ではない住まい方の提案をすべき課題であった。そのために家と家を仕切る壁を破壊した。壁をばらばらに配置することによって住宅のプライベートを確保しつつも、そこにある「ここ」でも「あそこ」でもない「そこ」を共有する、あたらしい共住を行える。



西村 蒼 (にしむら そう) 東京大学
工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名 / 指導教員名: 西出 和彦、大月 敏雄、松田 雄二、佐藤 淳、木内 俊彦、西田 司、仲 俊治、青木 弘司、海法 圭



21 シェアハウス／〇〇が集まって棲む家

このシェアハウスでは、血縁関係のない他人同士であるBMXライダーが都心で共同生活をする。他人との競争、自分との戦い、パフォーマンス性が求められる。シェアハウスの最大の魅力である一緒に暮る人同士の結びつきに加え、地域との結びつき、また、自己表現としてのステージで魅せる、見てもらう機能を持ったシェアハウスを提案する。



濱田 奈那 (はまだ なな) 東京家政学院大学

現代生活学部 生活デザイン学科 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:瀬川 康秀

指導教員名:原口 秀昭、瀬川 康秀、前嶋 謙二



23 集合住宅の設計

私は集合住宅を設計するにあたって、「安心して住める場」、「住戸が集合するとできること」を考えることから始めた。「安心して住める場」とは、プライバシーを守れることや、自分の周りにどんな人が住んでいるか知れることが必要と考えた。「住戸が集合するとできること」とは奥行きのある風景が作れることであると考えた。これらを踏まえ、多くの人が住みやすい集合住宅の提案をする。



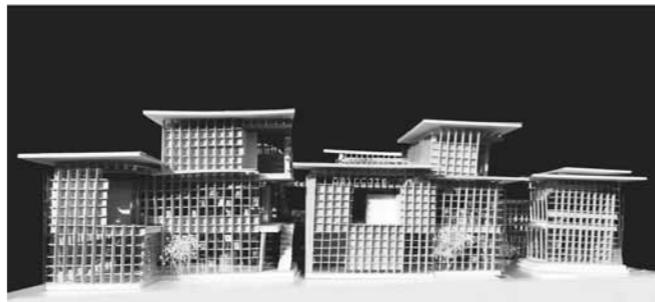
古川 亮 (ふるかわ りょう) 東京電機大学

未来科学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:山田 あすか

指導教員名:川辺 直哉



24 軒のある街

突然雨が降る、日差しが強くなってきた そのような時、偶然立ち寄れる軒のある場所となる。普段、他人の趣味というものは閉ざされているが、格子状の棚を設け趣味をオープンにし、この前を通る人が軒の下で誰かの趣味に出会うことで、新たな繋がりが生まれると考えた。近隣の人々との交流が減少している今、商業と住宅が混在する代官山で自ら趣味を発信する事で、偶然から何年も続くコミュニティの形成を試みた。



城所 友莉奈 (きどころ ゆりな) 東京都市大学

工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:手塚 貴晴

指導教員名:栗田 祥弘



25 神楽坂に住む

敷地は、神楽坂の中でも、特に路地や高低差のあるところである。そこで、住宅の中に路地を組み込み、高さに変化を与えた空間を構成して、仕切のない住宅を提案する。部屋というより、スペースを活かしながら住むことで、街や家族との関わりをより増やせるように考えた。建物の中を通る少し暗い路地には、小さな喫茶スペースの入口があり、南向きの明るい中庭へ繋がる。意外性のある空間のつながりも、神楽坂の特徴である。



御園生 美久 (みその う みく) 東京理科大学

工学部第一部 建築学科 / 2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:石橋 敦之、茂茂 紀和子、薩田 英男、船木 幸子、峯田 建、

熊谷 亮平、岩澤 浩一

指導教員名:石橋 敦之



26 三宿の住宅

緑道と歩道を繋ぐ。外と中を繋ぐ。私生活とパブリックを繋ぐ・・・空間を“繋げる”ことによって家族は視線が合い、会話が生まれ、その関係は地域にも繋がっていくー豊かな緑道沿いの住宅地で、家族や地域の人と心地よく共生できる。そんな住宅を提案する。



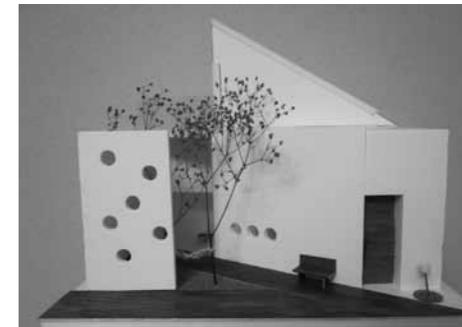
佐々木 風音 (ささき かざね) 東京理科大学

工学部第二部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:呉 鴻逸

指導教員名:栢木 まどか、常山 未央



27 上を向いて住もう 一都市型住居 私とパートナーの為の住まいとアトリエ

アウトドア好きな夫婦のための住宅。都市の中でも緑や風の流れ、陽だまりといった自然を身近に感じながら生活できるような住宅を考えた。特にアトリエは上から注ぐ光と下に見える緑が同時に得られ、自然の中で仕事をしているような空間を意識した。街に開く形の中庭にはこの家の象徴となるハンモックを置き、自然を感じられる安らぎの場となり、また、街の人々との交流の場となる。



鈴木 麻夕 (すずき まゆ) 東京理科大学

理工学部 建築学科 / 2年

課題出題時学年:2年

出題教員名:山名 善之

指導教員名:宮原 亮



28 家族をリスタートする住宅

家族とは、ふと気づいたときに周りにいる存在だと考え、家の中でも家族の気配を感じられるように視線の抜け方に着目した。複雑な家族関係を感じさせないようにアイコンタクトやコミュニケーションといったアクションを誘発させる。そこで、気配を感じながら生活するのに、視線の集まることにはみんなで共有できるものを配置し、人と人のつながりを物でつなぎ、賑わいのある住宅を提案する。



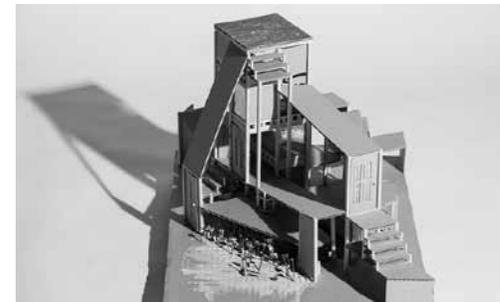
上田 雄介 (うえだ ゆうすけ) 東洋大学

理工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:篠崎 正彦

指導教員名:津野 恵美子



22 住宅II

2段ベッドを介して妹とおしゃべりしていた。見えないけれど聞こえる、物としての家具は共有しているけれども空間としての家具は共有していない。ベッドの位置をだんだんとずらしていきながら四人の家族の家をつくれな。家は建物の種類の中でも、家具に近い。敷地とは設置して良い領域、寝るためのベッドを成長させ住むための家具を敷地に置けば、屋外は家だ。



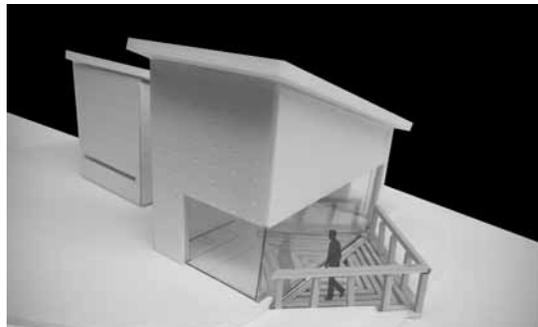
川口 ほたる (かわぐち ほたる) 東京藝術大学

美術学部 建築科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:乾 久美子、河内 一泰、市川 竜吾

指導教員名:乾 久美子、河内 一泰、市川 竜吾



29 『私のアトリエ』…空間の原点を掴む

海を見渡せる丘の上のアトリエ兼住宅。角に向かって作業する「集中」、大きな窓やバルコニーから海を眺める「リラックス」、移動という行動により得られる「リフレッシュ」の3つのスペースに分ける事で効率良く制作が出来る空間にした。全面的な窓やトプライト、水場のスリットの窓など採光に工夫を凝らし、自然のエネルギーを体に溶け込めながら創造・想像できるアトリエである。



草柳 奈津美 (くさやなぎなつみ) 日本大学
芸術学部 デザイン学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 熊谷 廣己
指導教員名: 熊谷 廣己



30 街に開く集住体 —神楽坂の集合住宅

視線を境界で住民と地域住民、内と外を仕切っていき、その境界とは壁であったり格子壁であったりスラブのスレである。それは従来、ただ仕切るだけであったが住民同士また地域住民を引き込み街全体の集住体になっていく。これが私の考える住み開きです。



堀田 昌宏 (ほったまさひろ) 日本大学
生産工学部 建築工学科 建築総合コース / 3年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 内村 綾乃
指導教員名: 泉 俊哉



31 大久保通りを元気にする集合住宅 —多様性を取り込んだ集合住宅

大久保商店街に元気を取り戻すため、一本道の通りの中に、入り組んだ路地や休憩できる広場のような人の溜まり場を集合住宅と共に作る。そこで、敷地の中に凹凸のある一枚壁を設ける。壁の表側は商店街の延長として人を引き込む空間、すぐ裏側は静かで居心地の良い居住スペースとする。賑わいのある商店街と落ち着いた暮らすことのできる集合住宅の融合を目指した。



伊藤 優太 (いとうゆうた) 日本大学
生産工学部 建築工学科 建築デザインコース / 4年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 泉 幸甫、森山 ちはる
指導教員名: 泉 幸甫、森山 ちはる



32 集住デザイン

住人が住む場所を選び作り上げていく集合住宅。ひとりひとりに与えられる自分だけの居場所=[住み家]とその周りの[共用部]。住み家をどこに作りどう使うのかによって、共用部が家族で過ごす空間になったり、住人同士で過ごす空間になったり、地域の交流空間になったり、空間に多様性が生まれる。さまざまな暮らしの変化に合わせて新しい空間が生まれ続ける集合住宅を提案する。



竹之内 博子 (たけのうちひろこ) 日本大学
生産工学部 建築工学科 居住空間デザインコース / 4年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 渡辺 康、谷内田 章夫
指導教員名: 渡辺 康、谷内田 章夫

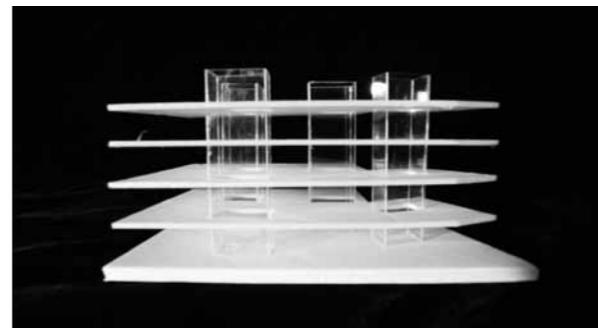


33 住宅

生活必要最低限のコアに余白と多数の用途を持つ庇が巻き付くことで無数の繋がりができる住宅を設計した。1階は仕事スペースにコミュニティを足すことで地域と繋がれる空間。2階は水回りから家族団楽を足すことで家族の繋がりが深められる空間。3階は個人のスペースからお互いの趣味やモノが繋がれる空間。機能同士や植物・動物などあらゆるものの繋がりが生まれる住宅である。



伊勢 萌乃 (いせもえの) 日本大学
理工学部 建築学科 / 2年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 佐藤 慎也、山中 新太郎
指導教員名: 菅原 大輔



34 北十間川の集合住宅 ~美術館と水辺に隣接する集住体~

敷地は個人化と平均世帯数が1.9人に向かう東京。その一方でSNSのような人と繋がりが自分アピールするものが流行る時代に、現代の集合住宅は応えられていないのではないか。集まり住んでいるのに、人に気づいてもらいたい時代なのに、集合住宅は個人カプセルを提供するだけである。ここで、「かまってほしいルーム」を住戸に設置した戸建型集合住宅、現代の「集まり住むカタチ」を提案する。



蒲生 良輔 (がもうりょうすけ) 日本大学
理工学部 海洋建築工学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 前嶋 謙二
指導教員名: 内海 智行

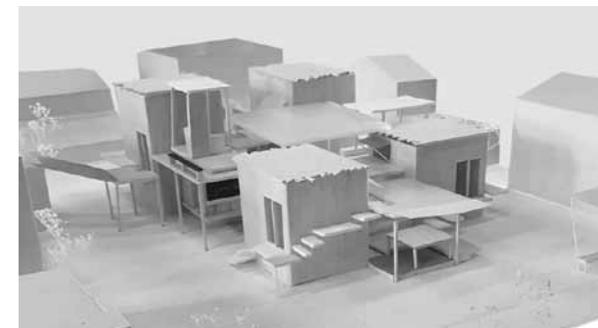


35 日工大学生寮

空間を極端に分断してしまうと個と個の時間は交わることなく終わる。強制的な繋がりがなどじれっただらう。自然な交流を生み出すことはできないのか?そこで寮ユニットと寮ユニットの隙間に大小様々なボリュームのcommonsスペースを有する学生寮を提案する。寮生は用途や気分によって自由に場所を選択し、交流が幾度となく繰り返され、コミュニティは多様化する。



松山 基弥 (ひやまもとや) 日本工業大学
工学部 建築学科 / 2年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 武田 光史、久野 靖広
指導教員名: 武田 光史、久野 靖広



36 シェアハウスの設計

この敷地の周辺は行事が盛んで、とても豊かな風景が日常に溢れている。ここで起こるアクティビティが、まちへと柔らかく溶け出していくシェアハウスを提案する。住人の個室をコアとして、レベルの違うスラブがその周囲に付き、散歩しているように空間を移動する。さらにその外周にオーニングや畑など地域との中間領域を設けることで、いつの間にか人々が関わり合い、町へと溶け込んでいく。



陰山 愛 (かげやまあい) 日本工業大学
工学部 生活環境デザイン学科 / 2年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 足立 真、白子 秀隆
指導教員名: 足立 真、白子 秀隆



37 21人のための家、あるいは集合住宅、あるいは、

建築が未完であることは、人々が補完をしあうきっかけを生む。ある家にはキッチンがない。ある家にはお風呂がない。各家の必ずどこかの壁がない。どうやらこの住まいには、ところどころ何かが欠けている。住民はその未完の部分を、欠けた部分を、補い合って住まなくてはならない。ないことで広がる空間、ないことで補い合う関係。欠落ゆえの豊かさが生まれる、未完成の家々。



小林 奈七子 (こばやし ななこ) 日本女子大学

家政学部 住居学科 居住環境デザイン専攻 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:宮 晶子、片山 伸也、寶神 尚史、東 利恵、植木 建一、渡辺 真弓

指導教員名:宮 晶子、片山 伸也、寶神 尚史、東 利恵、植木 建一、渡辺 真弓



38 都市型併用住宅のデザイン

「積層する円筒」

都市から住居内のパブリック空間へ、さらにプライベート空間へと緩やかに移動出来るよう、交錯する3つの円筒をスキップフロアーで繋いでいる。それぞれの階高を変えることで空間に変化を与えながら、フロアを繋ぐ位置にカーブする家具を置くことで適度な距離を保っている。また、住居の入口をペーカリーとすることで都市との交流を図っている。



三島 友里 (みしま ゆり) 文化学園大学

造形学部 建築・インテリア学科 住生活デザインコース / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:今井 智子、久木 章江

指導教員名:今井 智子、久木 章江



39 大きな家

幅広い年齢層が集まる30人家族の集合住宅を考えた時、同じ場に住まうことになっても日常生活で関係をもつことは難しいのではないかと考えた。様々な年代の人が家で過ごす時の共通点は何か。食事を、学習する、くつろぐ=テーブルに向かう。テーブルを共有することで生活リズムの異なる者同士も関わり合いが生まれるのではないか。今回、大きなテーブルのある集合住宅を提案する。



間野 知英 (まの ちえ) 法政大学

デザイン工学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:渡邊 眞理、下吹越 武人、三浦 文典、後藤 武

指導教員名:後藤 武



40 「集合住宅」—水路のある低・中層集合住宅—

敷地を北東に流れる水路。緑の豊かさがある水辺を中心とした生活と、その風景を意識した25戸の集合住宅を計画。水路をまたぐボリュームは、敷地をひとつに繋げると共に各住戸へとつながる動線を形成し、住民の生活に拡がりを与える。レベル差のある空間構成、外部との関係性を考えた住戸配置、共有部は開放的かつ公私関係や内外を曖昧化する居心地のよい生活を営む仕掛けとして展開させる。



横田 菜月 (よこた なつき) 前橋工科大学

工学部 建築学科 / 4年

課題出題時学年:3年

出題教員名:石田 敏明、石川 恒夫、木島 千嘉

指導教員名:石田 敏明、石川 恒夫、木島 千嘉



41 前工大学生村 ～集まって住む楽しさのデザイン～

学生の時に経験した生活はきっとこれからにつながり、多くの人に出会い、学び、遊び、別れ、自分自身を見つけ出す一度きりのもの。だから学生同士が集まって生活する小さな集合住宅をデザインする。そこで路地を使って隠れた住みかの中、学生をさまざまな場所へ導いて、毎日違うストーリーの生活を送る学生の新たな住み方を提案する。



荻原 美帆 (おぎはら みほ) 前橋工科大学

工学部 総合デザイン工学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:松井 淳

指導教員名:松井 淳、長谷川 一美、韓 亜由美、稲見 成能、田中 雅美



42 働きながら住む10世帯の空間

団地が多くどこか寂れたような辰巳地区。その対岸の東雲地区はタワーマンションが建ち並び、辰巳とはまるで対照的である。今回、そのような土地と土地をむすぶ橋のもとに位置する辰巳側の敷地に、橋の延長線となる、敷地から織りなす集合住宅を設計する。



岩田 舞子 (いわた まいこ) 武蔵野大学

環境学部 環境学科 都市環境専攻 / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:伊藤 泰彦、水谷 俊博、大塚 聡

指導教員名:伊藤 泰彦、水谷 俊博、大塚 聡



43 玉川上水沿いに建つ住宅

敷地が散歩道を軸とし音大と美大の中心にあることから両学生が利用できるホール、ギャラリーと住宅の併設を考える。3つのプログラムが相互に繋がりをもちながら、また、住居空間と程よい距離感が生まれるようにするために一部の壁を地面と繋がるように反らした。この操作によって外部には緑豊かな立地を生かしたホールが生まれ、室内のギャラリーと住居空間、外部がゆるやかに繋がる。



羽根田 雄仁 (はねだ ゆうじ) 武蔵野美術大学

造形学部 建築学科 / 3年

課題出題時学年:2年

出題教員名:菊地 宏

指導教員名:金子 智子



44 今日の共用住宅(シェアハウス)

生活や時間に余裕がないシングルマザー。生活に余裕はあるが、毎日に活力を求めており、どこか焦っているようにも感じる高齢者。この異なる問題を抱える2世帯を対象者とするにあたり、注目したのが「心のゆとり」。心とは人間の行動力の源であり、人を人として形ずけていく根源のものである。その心にゆとりを持たせることで、生活に余裕や活力が生まれてくるのではないかと考えた。



山田 空 (やまだ そら) 明海大学

不動産学部 不動産学科 デザインコース / 3年

課題出題時学年:3年

出題教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕

指導教員名:鈴木 陽子、塚原 光顕



45 目黒川沿いの集合住宅

開かれた層と閉じた層を交互に積層させ、タテに住戸を割り当てる。住戸単位の認識は細分化され、住民は個性ある小さな家をいくつも持つような感覚になるだろう。静かに過ごす家、隣人とご飯を食べる家、友達を気軽に呼べる家など、個性は様々だ。また、この小さな家はニーズに合わせて手放したり増やしたりすることができ、住民に寄り添うようにして表情を変えていく。



牧戸 倫子 (まきどりんこ) 明治大学

理工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名: 大河内 学
指導教員名: 桑原 茂



46 集合小住宅

本敷地は忍城やさきたま古墳群で知られる埼玉県行田市の一角にある。歴史的景観と厳しい気候の中で、最小限住宅により生まれる余剰空間の住まいの在り方、町の路地性から秘密基地をイメージした。また、地下利用は安定した温湿度環境をつくり、新たな換気システムは風の道をつくる。路地の奥に潜むこれらの環境装置が、現代の忘れかけた心象風景を取り戻し、安らぎの場を与えたと考えた。



中野 綾希 (なかのあやき) ものつくり大学

技能工芸学部 建設学科 建築デザインコース / 4年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 藤原 成暁
指導教員名: 藤原 成暁、青山 恭之、大島 博明



47 自然のなかの居住単位

自然には、その長い歴史が培った、人間の力ではどうにも作り出せないような多様性がある。ぼくは、そういう多様さの中にそっと補助線を引くようにして生活空間を形作ることで、自然環境がそのまま内部空間を特徴づけるような家を作りたかった。人工環境でありながら自然環境でもあるような、新しい生活環境を生み出す。



瀬戸口 怜央 (せとぐちれお) 横浜国立大学

理工学部 建築都市・環境系学科 建築EP / 4年
課題出題時学年: 3年
出題教員名: 北山 恒
指導教員名: 藤原 徹平、三浦 丈典、保坂 猛、仲 俊治、畝森 泰行、野口 直人



48 早稲田に寄与するキャンパスと住まい —Activate Waseda—

家族の多様化が進み、個人を支える必要性がより高まっている今、家族という枠組みを超えた新たな共同体が必要なのではないだろうか。本計画では戸山団地の独居老人と新大久保地区の在日コリアン青年が「超家族(=個人が社会と直接的なつながりを持つとうと試みたときに、それ自体は社会的な位置づけではないがその個人を支え、また血縁のない個人同士をつなぐ集団)」として住まうための集合住宅を設計した。



田代 夢々 (たしろむむ) 早稲田大学

理工学術院 創造理工学部 建築学科 / 3年
課題出題時学年: 2年
出題教員名 / 指導教員名: 中川 武、入江 正之、渡辺 仁史、佐藤 滋、後藤 春彦、有賀 隆、中谷 礼仁、阿部 俊彦、小岩 正樹、藤井 由理、渡邊 大志、小林 恵吾

第15回住宅課題賞2015 建築系大学住宅課題優秀作品展

主催: 一般社団法人 東京建築士会
後援: 公益社団法人 日本建築士会連合会
一般社団法人 東京都建築士事務所協会
一般社団法人 日本建築学会 関東支部
公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部
株式会社 新建築社
株式会社 エクスナレッジ
特別協賛: 株式会社 総合資格
協力: 公益財団法人 ギャラリー エー クワッド
工学院大学 木下庸子研究室

[カタログ]

企画・編集: 鷺海浩康、梅津洋佑 / 一般社団法人 東京建築士会

デザイン・制作: 株式会社 ケシオン

発行: 一般社団法人 東京建築士会

一般社団法人 東京建築士会

〒104-6204 中央区晴海1-8-12 オフィスタワー Z 棟4F (晴海トリトンスクエア内)

[TEL] 03-3536-7711 [FAX] 03-3536-7712 [E-mail] event02@tokyokenchikushikai.or.jp

[URL] <http://www.tokyokenchikushikai.or.jp>

© 一般社団法人 東京建築士会 2015

バスルームを自由にデザインする



介護用ユニットバスも充実

ご使用頂く方のご事情に応じて、利き手に合せた手摺やバーの設置はもとより、扉やバスタブの高さや位置、ベンチ等の設置なども対応したユニットバスを製作施工いたします。

もちろん、バスルーム用リフトなどのケア用機器を組込んだユニットバスの製作も対応可能です。

また、メーカーを問わず、自在に仕様を選べますので、通常のバスルームのような外観のまま、便利さや快適さをとことん追求頂けます。



大型浴室や機械式浴槽設置も可能です。

東京バススタイルのオーダーデザインユニットバス

東京バススタイルのオーダーデザインユニットバスは、バスタブやタイル、水栓など、メーカーフリーで自由なレイアウトが可能です。梁欠け、柱欠け、パリアフリー加工はもちろん、壁面のニッチ加工、斜め天井を始め、タイルのデザイン貼りなど細部の仕上げも対応できます。

またユニット防水工法により高い防水性を実現し、木造2階建ての建物やマンションに導入できるのも魅力です。

1. バスタブや水栓、タイルなどを色々なメーカーから組み合わせ、自由なレイアウトが可能
2. 柱欠、梁欠、変形形状、トップライト、斜め天井などにも対応。リフォームに最適です
3. シャワーブース併設型のバスルームなど、お客様のご要望に応じてお造りしています



平成26年度 1級建築士 卒業学校別実績

下記学校卒業生合格者の
6割以上が総合資格学院の
現役受講生!!

下記学校卒業生合格者
総合資格学院 現役利用率
61.6%
他講習
利用者
+
独学者
総合資格学院
現役
受講生

合格者2,199名中、総合資格学院現役受講生1,355名

(平成26年度 1級建築士設計製図試験 卒業生合格者20名以上の全学校一覧)

日本大学	卒業合格者 201	総合資格学院 利用者数 116	金沢工業大学	卒業合格者 42	総合資格学院 利用者数 22	愛知工業大学	卒業合格者 32	総合資格学院 利用者数 19	関東学院大学	卒業合格者 25	総合資格学院 利用者数 18
東京理科大学	卒業合格者 130	総合資格学院 利用者数 85	神戸大学	卒業合格者 42	総合資格学院 利用者数 29	横浜国立大学	卒業合格者 32	総合資格学院 利用者数 25	日本工業大学	卒業合格者 25	総合資格学院 利用者数 17
早稲田大学	卒業合格者 90	総合資格学院 利用者数 62	名城大学	卒業合格者 41	総合資格学院 利用者数 27	名古屋工業大学	卒業合格者 31	総合資格学院 利用者数 21	信州大学	卒業合格者 24	総合資格学院 利用者数 17
近畿大学	卒業合格者 75	総合資格学院 利用者数 54	東京都市大学	卒業合格者 40	総合資格学院 利用者数 28	新潟大学	卒業合格者 30	総合資格学院 利用者数 15	前橋工科大学	卒業合格者 24	総合資格学院 利用者数 15
芝浦工業大学	卒業合格者 75	総合資格学院 利用者数 47	中央工学校	卒業合格者 39	総合資格学院 利用者数 26	大阪工業技術専門学校	卒業合格者 30	総合資格学院 利用者数 11	福岡大学	卒業合格者 24	総合資格学院 利用者数 14
明治大学	卒業合格者 67	総合資格学院 利用者数 42	東京理科大学	卒業合格者 38	総合資格学院 利用者数 22	北海道大学	卒業合格者 29	総合資格学院 利用者数 14	東洋大学	卒業合格者 23	総合資格学院 利用者数 12
工学部	卒業合格者 64	総合資格学院 利用者数 34	神奈川大学	卒業合格者 37	総合資格学院 利用者数 23	龍谷大学	卒業合格者 28	総合資格学院 利用者数 10	名古屋大学	卒業合格者 23	総合資格学院 利用者数 17
大阪工業大学	卒業合格者 51	総合資格学院 利用者数 30	東京工業大学	卒業合格者 37	総合資格学院 利用者数 26	広島工業大学	卒業合格者 28	総合資格学院 利用者数 11	三重大学	卒業合格者 22	総合資格学院 利用者数 17
法政大学	卒業合格者 51	総合資格学院 利用者数 36	千葉大学	卒業合格者 37	総合資格学院 利用者数 22	鹿児島大学	卒業合格者 27	総合資格学院 利用者数 17	東北工業大学	卒業合格者 22	総合資格学院 利用者数 14
京都工芸繊維大学	卒業合格者 50	総合資格学院 利用者数 40	千葉工業大学	卒業合格者 36	総合資格学院 利用者数 17	大阪大学	卒業合格者 27	総合資格学院 利用者数 14	武蔵野芸術大学	卒業合格者 21	総合資格学院 利用者数 16
京都大学	卒業合格者 50	総合資格学院 利用者数 25	首都大学東京	卒業合格者 36	総合資格学院 利用者数 25	東大	卒業合格者 27	総合資格学院 利用者数 18	立命館大学	卒業合格者 21	総合資格学院 利用者数 17
東海大学	卒業合格者 47	総合資格学院 利用者数 26	千葉大学	卒業合格者 35	総合資格学院 利用者数 22	大分大学	卒業合格者 26	総合資格学院 利用者数 15	広島大学	卒業合格者 20	総合資格学院 利用者数 13
九州大学	卒業合格者 46	総合資格学院 利用者数 30	大阪府立大学	卒業合格者 33	総合資格学院 利用者数 20	福井大学	卒業合格者 27	総合資格学院 利用者数 11	宝塚工業大学	卒業合格者 21	総合資格学院 利用者数 9
関西大学	卒業合格者 42	総合資格学院 利用者数 26									

※卒業学校別合格者数は、試験元である(公財)建築技術教育普及センターの発表によるものです。

1級建築士試験 学科も設計製図もNo.1! 対面指導の優位性が証明されました!



※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受験生は一切含まれておりません。 ※全国合格者数および全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センターの発表に基づきます。 ※学科+製図ストレート合格者数は、平成26年度2級建築士学科試験に合格し、平成26年度2級建築士設計製図試験にストレート合格した方です。

Tokyo Bath Style

オーダーデザインユニットバス
株式会社 東京バススタイル 昭和化学工業グループ(東証第2部上場)
TEL:03-3446-2492 FAX:03-3446-2493 E-mail:info@t-bath.net
〒108-0071 東京都港区白金台5-3-7 くりはらビル2階(建物右側の外階段より2階へお上がりください)
【営業時間】10:30~18:00【定休日】日・祝祭日

※カタログ資料のご請求は、「弊社HPの〈問合せ&資料請求〉」「FAX」「電話」にてお願い致します

www.t-bath.net

総合資格学院

私たち総合資格学院はおかげさまで、創立35周年を迎えました。これからも有資格者の育成を通じて、業界の発展に貢献して参ります。

総合資格学院
学院長 岸隆司

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル22F TEL. 03-3340-2810 http://www.shikaku.co.jp 総合資格 検索 Facebook「総合資格 fb」で検索!

1級・2級 建築士 構造設計1級建築士 設備設計1級建築士 建築設備士 1級・2級 建築施工管理技士 1級・2級 土木施工管理技士 宅地建物取引士 インテリア コーディネーター

(法定講習) 一級・二級建築士定期講習 / 管理建築士講習 / 第一種電気工事士定期講習 / 監理技術者講習 / 宅建登録講習 / 宅建登録実務講習